

令和元年6月6日現在

機関番号：32507

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13406

研究課題名(和文) 合衆国南西部の小説と映画における空間の表象についての研究

研究課題名(英文) A Study on the Representation of Space in Contemporary Novels and Films of the U.S. Southwest

研究代表者

井上 博之 (Inoue, Hiroyuki)

和洋女子大学・人文学部・助教

研究者番号：50780392

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は第二次世界大戦後の現代アメリカ合衆国南西部を舞台にした代表的な小説および映画作品における空間や場所の表象について考察するものである。文学作品と空間との関係は近年複数の理論的な立場から注目を集めるようになってきた研究領域である。最近の研究動向を踏まえながら言語や映像によって構成される物語作品が空間や場所をどのように構築するのかという問題を具体的なテキストの読解をとおして検討する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の根底にあるのは人間が物語をとおしてどのように空間や場所との関係を築いていくのかという問題意識である。将来的には小説および映画と空間性との関係についての一般性を持った理論的な考察へと発展させていきたいと考えているが、その目的に向けた最初の一步として、個々の小説および映画のテキストについて空間の主題に着目しなければ見えてこないような側面を引きだして分析をおこなっている。その過程で空間性が時間や歴史、個人や共同体の記憶、人種や民族に関わる政治的な主題、あるいは物語の語りなどの形式的な問題にも密接に関わっていることを明らかにしている。

研究成果の概要(英文)：This study examines the representation of space and place in some representative novels and films of the contemporary U.S. Southwest. Recently, there has been a growing interest in the relationship between narrative and space. Incorporating various theoretical approaches to spatiality, this study, through close readings of individual texts, clarifies how literary language and cinematic images have constructed narrative space.

研究分野：米文学、映画

キーワード：合衆国南西部 空間 小説 映画

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

以前から取り組んできたアメリカ合衆国の西部および南西部の文学作品についての自身の研究、小説や映画のテキストと空間や場所との関係への関心が本研究の構想の最初のきっかけとなった。先行研究について調べるうちに物語と空間性との関係については近年複数の理論的な立場からの検討が進められていることが分かり、それらの理論的な知見を取りいれながらコーマック・マッカーシーやレスリー・マーモン・シルコウなど現代の南西部の代表的な作家の小説作品、および同地域や米墨国境地帯を舞台とした映画作品を空間に着目して分析したいと考えたのが研究の背景である。

2. 研究の目的

本研究は第二次世界大戦後の現代アメリカ合衆国南西部の小説および映画作品における空間や場所の表象について考察するものである。文学作品と空間との関係は近年複数の立場から注目を集めるようになってきた研究領域であり、最近の研究動向を踏まえたうえで、言語や映像によって構成される物語作品が空間や場所をどのように構築するのかという問題を論じる。テキストがどのように物語内の空間を形成しているか、および物語内の空間とフィクションの外側に先行して存在すると考えられる現実世界の空間とがどのような相互関係を持つかなどといった理論的な問題を考察すると同時に、現代のテキストが先行する西部・南西部をめぐる物語をとくに反復し、ときに書き換えながら重層的な物語空間を形成していく様子をあくまでも個別のテキストの精緻な読解をととして検討することを目的としている。2年間の助成期間中に原稿を完全なかたちで用意することは難しいが、個別のテキストについての分析をまとめ、最終的には英語で書かれた研究書として出版できるような論考を執筆することを目標としている。

3. 研究の方法

物語と空間との相互作用を考察するため、本研究では他の研究分野における空間性をめぐる研究の成果を領域横断的に参照しながら、あくまでもそれぞれのテキストに根ざしたかたちで分析を進めた。一つ一つの分析対象に見あった空間の問題に関連する具体的なトピックを設定し、それぞれのトピックを考えるための理論的土台として、地理学や文化人類学や哲学などの分野における研究を参照し、分析対象となる作品の精読（小説の場合は特定のパッセージの精緻な読解、映画の場合はショット分析）をもとにした研究をおこなっている。

4. 研究成果

本研究は2年間にわたる計画であった。1年目である2017年度の作業として、まず文学・映画研究や人文地理学、その他の分野で蓄積されてきた空間についての先行研究を整理することから始めた。複数の理論的な研究を比較しながら共通点を抽出し、空間や場所が物語の背景として静的に存在するだけでなく、物語のテキストによって構築されるものであることを確認した。同時に、合衆国南西部の空間が歴史的にどのように構築されてきたかも検証し、地理的区分として存在するかのように見えるこの地域それ自体が実際にはさまざまな政治的な経緯と言説によって形成されたものであることを確認した。これらの議論は本研究の土台となるイントロダクション的な論考として原稿にまとめている。

それと並行して、すでに学会発表などのかたちで執筆に着手していたコーマック・マッカーシーの『越境』(*The Crossing*)や『老いた者の住む国ではない』(*No Country for Old Men*)、レスリー・マーモン・シルコウの『死者の暦』(*Almanac of the Dead*)についての分析を発展させ、まだ草稿段階ではあるが原稿として最後まで執筆した。『越境』の分析においては文化人類学者ティム・インゴルドの線についての理論、またマッカーシーが小説の執筆時に意識していたと考えられるカオス理論などを参照しながら、物語空間内における登場人物の移動、物語のプロットが描く軌跡などの複数のレベルにおいて存在する無数の線が小説のテキストを織りあげる様子を明らかにした。『老いた者の住む国ではない』についての論考ではこの物語における痕跡(trace)、記号(sign)の重要性に着目した。哲学者や地理学者による議論を参照しつつ、発見される痕跡が次の痕跡へと連鎖を続けながらもその痕跡を残した存在は不在であり続ける、というこの物語において反復されるパターンがフィルムノワールの閉鎖的な空間を形成していることを論じた。『死者の暦』の議論においては地理学者による地図についての理論を参照し、この小説における空間が南北アメリカ大陸およびカリブ海地域の歴史と切り離すことのできないかたちで提示されていること論じている。

1年度目の成果の発表として、2017年度末に明治学院大学で開催されたアダプテーションについてのシンポジウムにおいて、マッカーシーの小説とその映画版についての短い報告をおこなった。

研究の2年目となる2018年度は前年度に執筆した草稿の改稿作業に加え、コーエン兄弟やトミー・リー・ジョーンズが監督した南西部を舞台とする映画をおもな対象とし、関連する理論的枠組みを参照しながら詳細なショット分析を中心とする論考の執筆を進めた。分析対象としたコーエン兄弟の映画はマッカーシーの『老いた者の住む国ではない』の映画版であり、1年目に小説について執筆した論考に付け加えるかたちで映画の分析をおこなった。米墨国境地帯を舞台としたトミー・リー・ジョーンズ監督による映画作品『メルキアデス・エストラダの3度の埋葬』(*The Three Burials of Melquiades Estrada*)は複数のレベルにおいて身近なも

の (the familiar) と見知らぬもの (the strange) が混交するテキストとなっている。これが心理学や文学研究などにおいて論じられてきた「不気味なもの」(the uncanny) の概念に近いことに着目し、空間を非常に独特のかたちで描写する複数のシークエンスの細かい読解をおおして、この映画が国境地帯の現実をどのように捉えているかを明らかにした。これらの映画についての分析には、西部と特権的に結びついてきたウェスタンやフィルム・ノワール、ロード・ムービーなどの映画ジャンルとの関連についての考察も織りこんでいる。これらの論考はまだ草稿の状態であり、次年度以降に改稿作業を続ける必要がある。

また、当初の研究計画にはなかったことであるが、これらの映画に関する分析作業に関連するものとして、トマス・ピンチョンの小説『インヒアレント・ヴァイス』(*Inherent Vice*) とポール・トマス・アンダーソン監督によるその映画版についての考察をまとめた論文を執筆する機会を得た。この論文ではアンダーソンの映画がピンチョンの小説を創造的に再解釈しながらロサンジェルス都市空間を映像で表現していく様子をいくつかのシークエンスの分析をおおして論じている。この成果は2018年度末に雑誌論文として出版された。

この2年間で得られた成果をもとにして、研究書としてまとめるために個別の論考をさらに改稿していく作業が今後しばらくの研究の中心となる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

Inoue, Hiroyuki. “‘A Southern California Beach That Never Was’: Adapting the Noir City in *Inherent Vice*.” 『言語文化』、査読無、第36号、2019年、pp. 203-217

〔学会発表〕(計1件)

井上博之「痕跡の物語空間：2つの『老いた者の住む国ではない』における合衆国南西部とジャンルの混淆」シンポジウム『トランスレーション・アダプテーション・インターテクスチュアリティ』、明治学院大学言語文化研究所、2018年

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）:

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。